

⑱名古屋第二環状自動車道での集中工事における 昼夜連続・通行止め方式の導入

受賞機関 中日本高速道路株式会社 名古屋支社 保全・サービス事業部
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 名古屋保全・サービスセンター

キーワード 集中工事、昼夜連続・通行止め、工事広報

全建賞審査委員会の評価ポイント

名古屋第二環状自動車道での昼夜連続・通行止め方式による集中工事実現の取組。高速道路の大規模修繕事業において、車線規制ではなく昼夜連続の通行止めによる集中工事での規制日数削減と、テレビCM、「みちラジ」など様々な媒体の広告による通行止め認知度の向上により、渋滞量や交通事故件数などの社会的影響が低減できた点が評価された。

また、通行止め実施の認知度を上げ、中京圏の道路ネットワークの代替機能を発揮するために34種類の広報媒体を活用し情報発信を実施した。広報においては、テレビCMを中心に横断幕などで工事広報を実施したことに加え、ETC2.0の蓄積情報の活用や、NEXCO中日本の公式アプリ「みちラジ」を活用した推奨迂回ルートの案内など新たな手法も導入した。

1. はじめに

本事業は、高速道路の大規模修繕事業の実施に当たり、昼夜連続の通行止めにより工事を実施することで社会的影響の低減を図ったものである。

平成27年3月に高速道路の大規模更新・修繕事業が事業化され、各高速道路会社にて事業を推進している。中日本高速道路(株)では、名古屋第二環状自動車道(以下「名二環」という。)の令和5年度の集中工事において、社会的影響の低減を目的として、当区間で初めて昼夜連続・通行止め方式を導入した。

3. 事業の成果

各種交通マネジメント施策を実施したことにより、令和4年度と比較して渋滞量を約7割削減でき、交通事故も大幅に減少する結果となった。また、施工面では、令和4年度の車線規制で実施した施工数量を令和5年度の通行止めの施工実績を踏まえて試算した結果、規制日数を約3割削減できた。工事を施工した受注者からも、一般車両が走行していない空間での作業により安全性の向上が図られた点を評価していただいた。

2. 事業の概要

名二環の清洲西IC～名古屋西JCTは、令和4年度から大規模修繕事業として高性能床版防水工の施工に着手している。令和4年度に車線規制で実施した集中工事では、長時間にわたる渋滞発生や車線規制に伴う交通事故が発生していた。これら社会的影響を低減するため、令和5年度集中工事から昼夜連続・通行止め方式を導入した。

渋滞量	2022年度集中工事 (車線規制)	37.6 km・時/日
	2023年度集中工事 (通行止め)	12.1 km・時/日 ▲7割
施工日数	2022年度集中工事 (車線規制)	28日
	通行止め方式 試算値	20日 ▲3割

渋滞量及び施工日数の削減効果



名二環位置図

名二環は、国道が並走しており、内側には名古屋高速道路公社が管理する名古屋高速道路があり、道路ネットワークが充実している。これら道路ネットワークを有効に活用し、高速道路と一般道路の交通混雑を最小化させるための交通マネジメントの検討を行うため、中部地方整備局名古屋国道事務所、名古屋高速道路公社、学識者による名二環交通影響検討会を組織し、検討を行った。

4. おわりに

関係機関の協力の上で昼夜連続・通行止め方式の導入したことにより、社会的影響の低減を図ることができた。今後も社会的影響の低減を図りながら、着実に大規模更新・修繕事業を推進していきたい。

賛助会員 日本道路(株)、前田道路(株)